



鈴鹿市議会議員

なかにし だいすけ

の議会・議員活動報告

大輔の議会報告2014

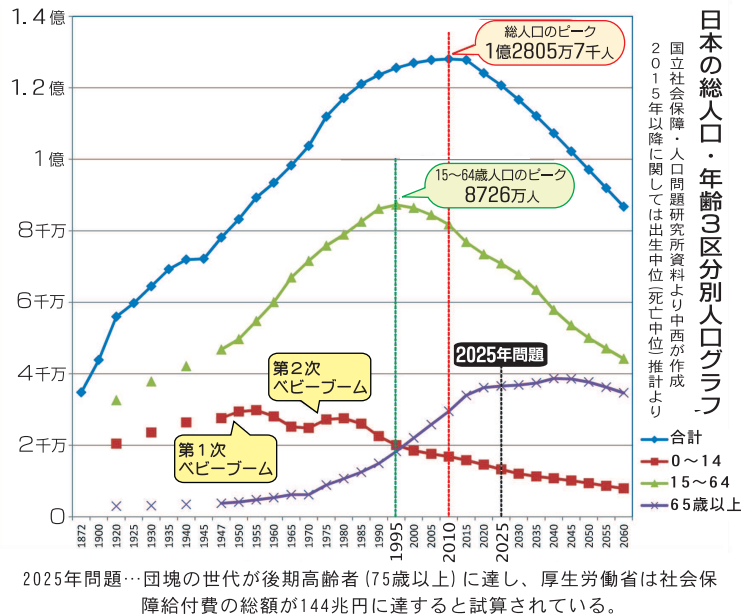
2014 1月号

発行者：
中西大輔と鈴鹿を育てる会
鈴鹿市南若松町296-12
TEL&FAX: 059-368-1110

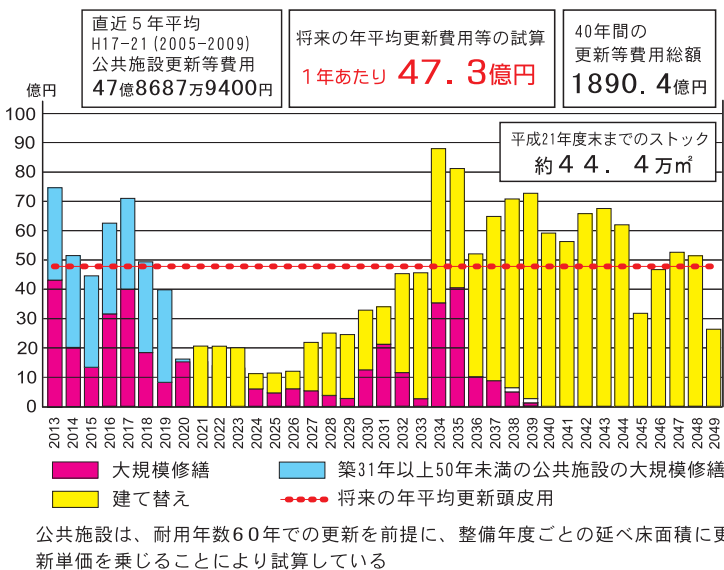


ホームページ <http://www.daisuke-nakanishi.net/>

Eメール宛先 daisuke.nakanishi@gmail.com



鈴鹿市における公共施設の将来の更新等費用の推計



鈴鹿市水道事業 老朽管更新基本計画のシナリオ比較

	シナリオ1	シナリオ2	シナリオ3
1~20年後	9億7600万円/年	11億2800万円/年	13億7500万円/年
21~40年後	10億9400万円/年	12億8700万円/年	14億8600万円/年
41~60年後	11億4100万円/年	13億5600万円/年	14億9400万円/年
61~80年後	9億6900万円/年	5億8500万円/年	-
81~90年後	3億4800万円/年	-	-
年間最大投資額	12億3200万円/年 (48~55年後)	14億9400万円/年 (39~45年後)	19億0100万円/年 (41~50年後)
更新完了時期	89年後	79年後	60年後
総事業費：約 870億円			

鈴鹿市の上水道は昭和28年に給水を開始、市の発展に伴って給水区域が拡大、高度経済成長期に建設された水道施設も多く、今後これらは更新時期を迎えます。水道施設の大部分は地中に埋設された管路です。現在の延長は平成23年度末で約1,325kmに及びます。今後、老朽化にあわせて全ての管路を更新するためには莫大な費用と長い時間が必要になります。

鈴鹿市では、市道の1・2級路線のアセットマネジメント
公共施設カルテ、橋梁長寿命化の取組が進んでいます。

少子高齢化と人口減少、公共施設やインフラの老朽化、税収の動き、社会保障のあり方：などなど、私たちにとって大きな課題ですが、これからの子どもたちにも大きな課題です。私たちは政策の選択にあたり、そのことを押さえておくべきです。

昨年度、それらの課題を中心に視察や勉強会などに取り組みしました。年度前半は産業建設委員長として道路のアセットマネジメントや水道管更新を訴え取りくみ、一般質問などを通じては公共施設の維持更新についてマネジメント白書の作成を継続して訴え、その結果は市の取組みに現れてきています。

市議会はもちろんですが市民のみなさんも、新しい政策を選択するにはこれらの課題と向きあい、これからの鈴鹿を考えることが大切です。

政策を考えるために 鈴鹿市について長期的な予測を 情報の共有と議論がより重要に

昨年の質問から

鈴鹿市は10年後、20年後、鈴鹿市の人口動向、高齢化率の推移、税収予測、義務的経費及び普通建設費の推移等の予測について、どのような考えを持ち、予測をしているのか？

人口について

20年後の推計は現時点ない。10年後の推計は総人口は減少傾向、平成33年には現在より約9百人減少と推測している。

↓ 疑問

全国の人口減少をどう考えているのか、推計は甘くないか。

高齢化について

高齢化率に関して、20年後の推計は行っていない。平成33年

までの推計結果では、高齢化率は現在の約20%から、10年後には約24%に推移すると推測。

↓ 疑問

高齢化が進めば福祉関連費用の負担増などの課題も出るがこれでいいのか。

税収について

税収予測について、社会情勢や税制動向などに左右されるため、長期的な推計は困難。平成24年度から平成27年度までの期間で推計、横ばいからやや微増と推計している。

↓ 疑問

人口減少は勘案されているのか、人口が減れば税収に影響があるはず。消費増税や復興増税などの動向はあるが、長い視点を持つべきではないか。

義務的経費について

人件費、扶助費、公債費の義務的経費の推移について、中期的な見通しとして、ほぼ横ばいで推移すると見込んでいる。

↓ 疑問

ここ10年間の動きでは扶助費は右肩上がり伸び、高齢化が進むことと合わないのでは。

建設費について

普通建設費について、厳しい財政状況だが、都市基盤を維持・整備していく必要から、各年で55億円の事業費を確保することとしている。

↓ 疑問

今後この事業費が確保できるのか、道路、橋などインフラの維持更新をすべて行えるか。



つれづれにやき

デトロイト市やタマ市が財政破たん、財政を立て直すため、大幅なリストラ、行政サービスの切り詰め、市民負担を増やすなどしていますが、市外へ転出する人も増え、後に残るのは移動できない人という問題が出ています。

これからは行政や議会だけでなく、市民の皆さんも一緒に考え選択に関わってもらえるようにすることが重要になります。鈴鹿の財政はどうか数字やグラフを見ながら一緒に考えたり、公共施設やインフラの状況を、これからの予測を踏まえながら考えることが大切です。

ご意見お聞かせください

ブログも日々更新しています。フェイスブックもしていますので、そちらも一度ごらん下さい。質問やご意見はメールをご利用お願いします。



Eメール宛先 daisuke.nakanishi@gmail.com